

【取組の概要】

○「松里」の歴史を紐解いていく活動。

松里の神社仏閣に秘められた歴史だけでなく、道（秩父往還、三塩軌道跡）や戦争遺跡（糧秣廠跡）、セギ、または人々の記憶の中に留められた歴史にも目を向ける。

○「松里」の生活を見つめ直す活動。

甲州民家や枯露柿などに見られる人々の営み、またこの地域を支えてきた産業（養蚕、果樹栽培、職人の仕事や、古くから受け継がれてきた風習の中に新しい価値を見出す。

○人々の交流の促進。

三塩軌道跡を巡るウォーキングイベントの開催や、ワインツーリズム、学習会などの企画をとおして地域内外の人々との交流の場を広げる。

【体制】

◆松里研究会

・松里を愛する有志の方々



【取組内容】

■ 定例会風景



■ ワインツーリズム風景



■ 料理教室風景



■ 講演会風景



■ フットパス案内文



■ フットパス風景



■ フットパスマップ作成



11月15日(日) 9時 恵林寺黒門前集合
参加費：500円 / 定員30名 / 小雨決行
秋になると農家の庭先にごろ柿が干される風景は松里の風物詩
恵林寺から秩父往還を南へ進み、武土原地区をめぐる
ころ柿生産家を訪ねるコースで松里の秋を満喫しましょう
※参加費にはフットパスガイドブックが上ります！

恵林寺黒門前→旧秩父往還→補助不動→安田稲荷社→
常泉寺→ころ柿生産家(窪田さん宅)→
十組屋敷(徳美園)路→恵林寺(12時頃)

・全コース約3kmです。歩きやすい靴、服装でご参加下さい。
・お昼食に備蓄の予定ですが、ご自身の方はスタッフと恵林寺
界隈の食堂で「ほうとう」で昼食にしませんか！
お申込は下記に参加者名(参加人数)、当日連絡
可能な携帯電話番号などお知らせ下さい。
嶋山洋酒 土屋幸三
e-mail: kozo@kizan.co.jp FAX: 0553-32-4119

主催：松里研究会



【1】取組経緯

- 平成17年 「松里研究会」を立ち上げた
- 平成21年5月30日 「三塩軌道」線路跡をめぐるウォーキング
- 平成22年3月29日 松里の魅力や自慢を語るシンポジウム
- 平成23年11月5日 ワインツーリズム2011
- 平成23年11月26日 ふるさと学習会「セギについて」
- 平成24年5月27日 ワインツーリズム・塩山松里編
- 平成24年8月21日 ふるさと学習会「松里の昔語り」
- 平成24年11月17日 ワインツーリズム2012
- 平成24年9月～11月 フットパス三塩トロッコガイドブック作成
- 平成24年11月25日 三塩トロッコウォーク
- 平成25年5月18日 武士原ウォーク
- 平成25年8月20日 ふるさと学習会「松里の鳥居に見る職人の技」
- 平成25年11月9日 ワインツーリズム2013
- 平成25年11月16日 フットパス「松里の秋を楽しむフットパス」
- 平成26年2月11日 枯露柿を利用した料理教室
- 平成26年5月18日 ふるさと歴史講演会「峡東地区の甲斐源氏」
- 平成26年6月8日 ふるさと歴史講演会「江戸時代の甲斐」
- 平成26年7月10日 ふるさと歴史講演会「松里の歴史を探る」
- 平成26年11月15日 フットパス「松里の秋を楽しむフットパス」

【2】工夫した点

- ・会員等は定めずに広く参加してもらえるようサロン形式で運営をしている。
- ・SNSを利用し参加者募集、情報発信を行っている。

【3】取組効果

- ・地元マップを作成した。フットパスガイドブック2種類を作成した。
- ・糧秣廠跡について、聞き取りや文献により詳しい調査が出来た。
- ・地域の住民との交流も広がり、地域外の人も交流が出来た。
- ・地域のことについて再発見できた。
- ・いろいろな意見や感じ方があることを再認識できるとともに、その調整のノウハウも上達してきた。

【4】取組の今後の展開及び課題

- ・継続して行うこと。
- ・参加者を増やしていきたい。

【5】事業費、財源とした補助事業等

- ・なし

松里地区の魅力発信
甲州・住民が 松里研究会 共催 きょうウオーク開催



トロッコが通るために掘られたトンネル
—甲州市塩山千野

甲州市塩山松里地区の住民有志が地域の魅力を発信し、発信しようと「松里研究会」を立ち上げた。地域に残るトロッコ線の見学会や高野の戦争体験の聞き取りなどを計画しており、同会は「地区住民のつながりが希薄になる中、地域の魅力を再認識し、連携を強めよう」としている。

研究会は塩山松里地区の自管業者や住民、市職員7人で構成。定期的にイベントを

聞き、地域に響く離れを所なを地区住民紹介する。最初のイベントは三日に、行い、トロッコ線三塩軌道線路跡を巡るウォーキングを開催する。トロッコ線は長さ長約一八・五で、一九二一年から七〇年前後まで旧三塩村とJ塩山駅周辺を走る。探掘された珪石や木材を運んでいた。

イベント当日はJ塩山駅から同市塩山藤木の八坂神社まで、メンバーの解説を聞きながら約三時間かけて歩、コース途中には、トロッコを運すために掘ったトンネルや真つすに続く道が残っているという。

同会は今後も、地域の高野の戦争体験を聞くなどの活動を展開する予定。同会幹事の萩原宗さん（五十）は「住民が松里地区の歴史、文化を語り、地区内外に魅力を発信できるようにしたい」と期待している。

地域の魅力再発見

甲州の 住民、シンポで提案

甲州市塩山松里地区の住民「覚悟に委ねる」に変えて有芯つくる「松里研究会」は28日、同市塩山小蔵敷の恵林寺で、松里地区の住民らに地域の魅力や自慢について語り合ってもらったシンポジウムを開いた。

シンポジウムは、日常生活の中でのお気に入りのスポットなどを住民に紹介してもらった。そこで、地域の再発見につながる企画、会員や住民ら約30人が参加した。

参加者からは「地区内を流れている水路を観光資源に活用したらどうか」「特産のこ柿の干し方を、観光客が視

ている江戸川（千巻）教授の鈴木隆隆さんの講演も受けた。鈴木さんは伝統的な観を守ろうと、住民らが石垣の修復に取り組んだ中興県石垣市白保の事例を紹介。まちの魅力を発掘することは、住民らの「モベーション」にも上るだけでなく、観光にもつながっていく」と話した。

同研究会は、松里地区の伝統や魅力を再発見して地区内外に紹介しようとして、研究会やイベントを開いている。今回の提案は今後の研究に生かしていくという。

住民が松里地区の魅力を紹介、語り合ったシンポジウム—甲州・萩原宗